

－はじめに－

近年、価値観の多様化、地域社会のつながりや支えあいの希薄化などによる、地域の教育力低下やインターネットやスマートフォンの急速な普及などによる、基本的な生活習慣の乱れや規範意識の低下など、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化し、子どもたちの成長や子育て中の保護者にも大きく影響を及ぼしています。さらに、こうした変化に伴い、学校が直面する課題は複雑化・困難化する状況にあります。

このような時代だからこそ、各人が自己を高めるとともに、困難にも協力して取り組むことができるよう、子どもを軸として、その基礎となる「主体性」と「社会性」を学校・家庭・地域が連携・協働して育てる教育が求められています。

このような中、この3月に県が策定した「滋賀の生涯学習づくりに関する基本的な考え方」では、「社会の力で市民性を育み、活力ある地域を創生」することを基本目標とし、対話と共生により、社会に貢献する人づくりを目指しており、また、「第2期滋賀県教育振興基本計画」においては、地域の力を学校に生かす仕組みづくりや、学校・家庭・地域が一体となり、社会全体で子どもを育てる環境づくりを推進することとしています。

こうした方向性を踏まえ、従来の「学校支援地域本部」、「放課後子ども教室」、「家庭教育支援活動」「土曜日の教育支援体制等構築事業」に加え、今年度より新たに本県の独自の取組として、「学ぶ力を育てる土曜学習支援事業」をスタートさせたところです。

さらに、新たな視点として、地域住民等の参画による学校運営協議会を設置するという「コミュニティ・スクール」の取組は、中央教育審議会答申「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた、学校と地域の連携・協働体制の在り方と今後の推進方策について」（平成27年12月21日付公表）においても、本事業と相互に補完し高め合う存在として、一体的、効果的な推進が必要とされています。

さて、本実践事例集は、地域全体で学びあい支えあう仕組みづくりの推進に資するものとして、各市町の工夫や努力によって取り組まれたことをまとめたものです。これからの取組の参考にしていただき、新たな視点から事業の拡充を図っていただければと思います。また、今後、取り組んでみたいとお考えの市町におかれましては、本実践事例集を参考の上、“先輩”市町の取組をまずは“見本”にお進めいただければと存じます。

最後になりましたが、平素より地域において本事業をはじめ、「社会全体で子どもの育ちを支える環境づくり」に献身的に取り組んでいただいている関係の皆様に対して、心より感謝申し上げますとともに、今後も引き続き御支援をお願いいたします。

加えて、本事例集の編集に際し、貴重な情報を御提供いただきました関係の皆様にご心より感謝申し上げます。

平成28年（2016年）3月

滋賀県教育委員会事務局
生涯学習課長 山崎 薫